

# インド洋大津波 犠牲者

# 3割超が子ども

スマトラ沖大地震と大津波は、子どもの犠牲者が極めて多いという特徴を見せている。国連児童基金（ユニセフ）のベラミー事務局長は、「死者の3分の1以上が子ども（18歳以下）と推定される」との見方を示す。目の前で肉親を津波に奪われた子どもも多い。食料・医療などの支援に加え、精神面でのケアも緊急の課題になってきた。

【ナガパティナム（インド南部）大澤文護、ゴール（スリランカ南部）西尾英之、コロンボ花岡洋二

## 日曜の朝弱者をのむ

### スリランカ

「病院からの聞き取り調査の結果、死者のほぼ7割が児童だった」。ス



(2003年、ユニセフ調べ)

	全人口(千人)	18歳未満の割合(%)
インド	1065462	38.9
スリランカ	219883	35.5
ネパール	19065	30.1
タイ	62833	30.5
日本	318	49.7
日 本	127654	17.4

◆被災各国の人口と18歳未満の比率◆



クローズアップ 2005

「夜になると涙が出る」と時折目を伏せ話したディジャーナさん。津波でうけた顔の傷も痛々しい。スリランカ・ゴール郊外の避難所で3日、梅村直承写真

情でつぶやいた。

ユニセフは、被害の大きい8カ国の子ども人口比率が39%に及ぶことから、犠牲者全体に占める子どもの比率は少なくとも3分の1以上になると見ている。しかし、パティカア島のケースが示すように実態はより比率が高い公算が大きい。理由として、波や漂流物に抵抗する力が大人より弱い▽津波の襲来が日曜

だろ」と話す。

スリランカ政府の児童保護担当部署によると、子ども死者数と、親を亡くした子どもの数の集計には、少なくとも今週末までかかるという。

### インド

南インドで最大の被害が出たタミルナド州の町ナガパティナムでも、4000〜5000人の犠牲者の3分の1以上が子どもだったとみられる。地元住民は、原因の一つとして津波が日曜（12月26日）の朝に起きた点にあると指摘する。

目撃者からは、流されそうになった時に、木などにつかまって難を逃れた生存者が多くいたとの証言がある。ニールランド担当官は「（死亡した子どもたちは）波に打ち勝つだけの力がなかったの

どもだったとみられる。地元住民は、原因の一つとして津波が日曜（12月26日）の朝に起きた点にあると指摘する。

同町のアッカライペット集落では、漁業で暮らして立てる750戸の住民のほとんどが、海岸で漁網や船の手入れをして

「波に消えた。次に女性が力尽きた。「平日なら子どもは、学校に行つて

ユニセフは被災した各々が、ボランティアで子どもを世話するよう指導している。しかし、「親が津波に流される場面を見た子どもたちのPTSD（心的外傷後ストレス障害）が危惧されても、一人一人の精神医療まで手が回らないのが現実」という。日本からの人的支援として「精神医療と里親制度の専門的知識が今後、必要になっていく」と話している。

また、伝染病の発生が心配される避難所で、体力のない子どもたちが二次被害に遭う懸念も出ている。岡山市のNPO「AMDA」は、スリランカ国内で公衆衛生教育に取り組むことになった。

## 手が回らぬ心のケア

「親が津波に流される場面を見た子どもたちのPTSD（心的外傷後ストレス障害）が危惧されても、一人一人の精神医療まで手が回らないのが現実」という。日本からの人的支援として「精神医療と里親制度の専門的知識が今後、必要になっていく」と話している。

## 独りぼっちになっちゃった

津波で中心部が壊滅的被害を受けたスリランカ南部、ゴール郊外に設けられた避難キャンプ。「お母さんとお姉さんと弟が死に、私は独りぼっち。お母さんのことを考えると涙が止まらない」。12歳の少女ディジャーナさんはうつろな表情で、そう話した。

ディジャーナさんはその時、自宅隣のおばの家で朝食を取っていた。押し寄せた海水で壁にたたきつけられ、顔や手足を負傷。泥とがれきの町を必死に走り、たどり着いた避難所で「お母さんたちは亡くなった」と聞かされた。

1週間以上が過ぎ、顔の傷は治りかけてきた。しかし、心の傷は深く、癒やされない。「夜中になるとお母さんのことが頭に浮かんで、涙が止まらないの」。母親からいつも「一生懸命勉強しなさい」と言われていた。「もう一度学校に行きたい。でもかばんもノートも全部流された。どうやって学校に行けばいいの」

避難所では約100人の子どもが暮らす。半数以上は肉親のだれかが死亡するか行方不明になっている。「昼間は元気でも、夜になると泣き出す子がいる。あの時のことを思い出すのでしよう」。世話をしている女性の1人がうち明けた。